

市内遺跡試掘確認調査
中近世城館確認調査（6）
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報12

2019

中津市教育委員会

市内遺跡試掘確認調査
中近世城館確認調査（6）
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報12

2019

中津市教育委員会

例 言

- 1、本書は大分県中津市教育委員会が2018年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。
- 2、調査は2018年度国宝重要文化財等保存整備費および2018年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

3、調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	廣畑 功 (中津市教育委員会教育長)	
調査指導	中村 修身 (北部九州中近世城郭研究会名誉会長)	
	宮武 正登 (佐賀大学教授)	
	小柳 和宏 (大分県立歴史博物館長)	
	三重野 誠 (大分県教育庁文化課参事)	
事務局	高尾 良香 (中津市教育委員会社会教育課長)	
	大森 健 (同)	管理・文化振興係主幹)
	河野さくら (同)	管理・文化振興係主幹)
	湊 恵 (同)	管理・文化振興係員)
	陽 麻里奈 (同)	管理・文化振興係員)
	渡邊奈津子 (同)	管理・文化振興係員)
調査、調査事務	高崎 章子 (同)	文化財室長兼歴史民俗資料館長)
	花崎 徹 (同)	文化財係主幹)
	浦井 直幸 (同)	文化財係副主任研究員)
	丸山 利枝 (同)	文化財係主任)
	三谷 紘平 (同)	文化財係主任)
	衛藤 美紀 (同)	文化財係主事)
	曾我 俊裕 (同)	文化財係主事)
	末永 弥義 (同)	文化財係嘱託)

- 4、市内遺跡試掘確認調査は、浦井・丸山・末永が、中近世城館確認調査は浦井が、長者屋敷官衙遺跡の調査は丸山が行った。
- 5、本書の執筆は第1章、第2章1、(5)、第3章を浦井が、第2章(1)①・③、(2)①、(3)、(4)を末永が、第2章(1)②、(2)②・③、(6)、第4章を丸山が行った。
- 6、遺構の実測、写真撮影などは調査担当者が行った。
- 7、本書の編集は、浦井が行った。

目 次

目次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	市内試掘確認調査	3
	1. 今年度の調査概要	3
	(1) 中津城下町遺跡	4
	(2) 沖代地区条里跡	5
	(3) 上ノ原平原遺跡	7
	(4) 佐知久保畑遺跡	7
	(5) 田丸城跡	8
	(6) 周知遺跡外	8
第3章	中近世城館確認調査	9
第4章	長者屋敷官衙遺跡	14
	報告書抄録	

図版・表目次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	2	第13図	中近世城館報告箇所位置図	9
第2図	試掘確認調査位置図	3	第14図	山国町中摩字屋形ヶ追周辺位置図	10
第3図	中津城下町遺跡41次調査区位置図	4	第15図	三光上深水字奥畑周辺位置図	11
第4図	中津城下町遺跡39次調査区位置図	4	第16図	三光原口字寺周辺位置図	11
第5図	中津城下町遺跡40次調査区位置図	5	第17図	田島崎城跡周辺位置図	11
第6図	沖代地区条里跡沖代町1丁目調査区位置図	5	第18図	三光諫山字広屋敷周辺位置図	12
第7図	沖代地区条里跡大字湯屋地区調査区位置図	6	第19図	三光臼木字立屋敷周辺位置図	12
第8図	沖代地区条里跡大字一ツ松地区調査区位置図	6	第20図	三光土田字城周辺位置図	13
第9図	上ノ原平原遺跡調査区位置図	7	第21図	耶馬溪町大字平田字古城周辺位置図	13
第10図	佐知久保畑遺跡調査区位置図	7	第22図	長者屋敷官衙遺跡周辺の地形図 (1:20000)	15
第11図	田丸城跡調査区位置図	8	第23図	確認調査平成30年度調査区 (1:200)	15
第12図	大字永添字大池調査区位置図	8	表1	長者屋敷官衙遺跡調査歴	14

写真目次

写真1	中津城下町遺跡41次調査Cトレンチ (南西から)	4	写真15	字地藏屋敷の堀	12
写真2	中津城下町遺跡39次調査トレンチ (東から)	4	写真16	字東ノ平敷の堀	12
写真3	中津城下町遺跡40次調査Aトレンチ (南から)	5	写真17	字城の土塁	13
写真4	沖代町1丁目Aトレンチ (北東から)	5	写真18	字古城の堀切	13
写真5	湯屋地区トレンチ (東から)	6	写真19	長者屋敷官衙遺跡建物 (人が立っている所が柱掘り方) (北から)	14
写真6	一ツ松地区3トレンチ溝 (西から)	6	写真20	長者屋敷官衙遺跡柱列と溝状遺構、土杭 (北から)	14
写真7	上ノ原平原遺跡Aトレンチ (東から)	7	写真21	長者屋敷官衙遺跡土杭 (S78) 出土状況 (北から)	14
写真8	佐知久保畑遺跡Dトレンチ (北西から)	7	写真22	長者屋敷官衙遺跡溝状遺構 (南から)	14
写真9	田丸城跡トレンチ状況 (北から)	8			
写真10	永添地区1トレンチ (東から)	8			
写真11	字屋形ヶ追の堀切	10			
写真12	字奥畑主郭下の土塁	10			
写真13	字寺の堀	11			
写真14	田島崎城跡の堀	11			

第1章 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万5千人、面積約490km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

2. 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡（47）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発出され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壘墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

古墳時代・古代 亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（49）や定留遺跡（51）でまとまって発見されている。古代には7世紀末の白鳳期に相原庵寺（5）が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踵ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡（6）がある。

中世 長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城跡（1）が築城される。近年の調査によって、中津城跡は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城跡 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 諸田遺跡 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 餅ヶ追窯跡 | 50. 定留貝塚 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 定留遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大合窯跡 | 52. 天貝川遺跡 |
| 5. 相原庵寺 | 17. 横遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 和間貝塚 |
| 6. 三口遺跡 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 畑中遺跡 | 43. 中須遺跡 | 55. 是則遺跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衛遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 若砥遺跡 | 56. 全徳遺跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ボウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 十前垣遺跡 | 57. ガラスノ遺跡 |
| 10. 奔旗塚古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 野田遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 上畑成遺跡 | 59. 石堂池遺跡 |
| 12. 助助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 諸田南遺跡 | 60. 舞手川流域遺跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第2章 市内遺跡試掘確認調査

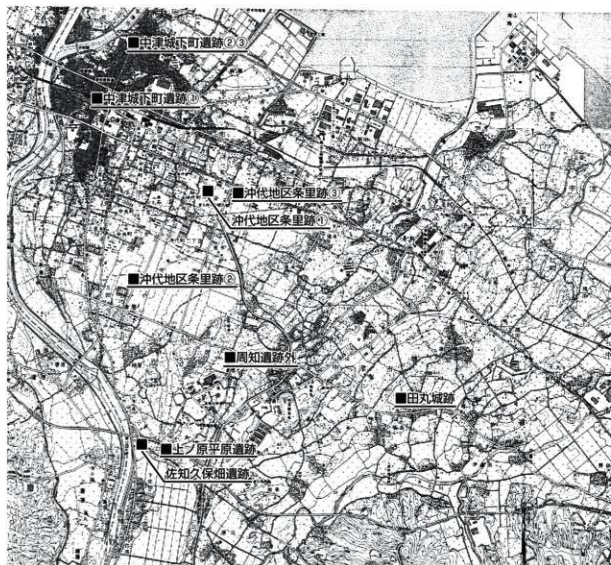
1. 今年度の調査概要

平成30年度1月末時点の市内における埋蔵文化財包蔵の照会件数は919件を数える。前年度より62件増加している。文化財保護法93条・94条第1項の届出・通知は189件提出されており、これは前年度から約1.5倍増加した。これに伴い調査件数も増加し、33箇所（前年度比プラス5件）の調査を行っている。

照会対象となる遺跡で最も件数が多いのは沖代地区条里跡で、個人住宅建設が主な工事内容であった。沖代地区条里跡の条里区割は東部と南部に残されているが、それ以外の水田は宅地化が進行している。次に照会件数が多い遺跡は中津城下町遺跡である。これまで同様、古い住宅の建替え、集合住宅の建設が目を引く。

工事は全体的に個人住宅の建設を目的とするものが大半を占める。大規模宅地分譲は少数認められるものの、主体は小規模宅地分譲に移りつつある。太陽光発電関連施設の建設は郊外や山間部を中心に大規模に行われている。

以下、補助を受け調査を実施した10箇所について報告する。



第2図 試掘確認調査位置圖 (S=1/50,000)

(1) 中津城下町遺跡

① 41次調査（江三竹町）

平成30年6月28日、中津市字江三竹町1949番地で就労支援施設及び居住施設建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。開発面積は762.88㎡で、深さ2.0mの地盤改良を計画するものであった。平成30年7月4日に確認調査を行い、3本のトレンチを設定して遺構・遺物の有無を確認した。深さ1.9m前後で砂礫の基盤層に達し、複数の大型土坑や溝を検出し、近世の陶磁器を出土した。このため、掘削深度を浅くするよう設計変更を依頼し、変更後に着工した。



第3図 中津城下町遺跡41次調査区位置図
(S=1/2,500)



写真1 中津城下町遺跡41次調査Cトレンチ（南西から）

② 39次調査（北門通）

平成30年7月20日、中津市北門通561-6地先から565地先で市道拡幅に伴う文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。調査対象地は東西31mである。8月21日に調査を行った。昨年度調査で西側については、市道拡幅工事に伴う発掘調査で遺構を確認していることから、東側について遺構の有無を確認した。調査の結果、現況下90cmで遺構（検出面：灰白色粗砂）を確認した。このため、工事対象部分について本発掘調査を行う事となった。



第4図 中津城下町39次調査区位置図
(S=1/2,500)



写真2 中津城下町遺跡39次調査トレンチ（西から）

③ 40次調査（船場町）

平成30年10月4日、中津市宇船場町518-1番付近から526番付近で市道改良に伴う文化財保護法第94条第1項の通知が提出された。今回の工事は延長約150mで、自転車歩行者の通行帯等を設置するものである。平成30年10月26日に確認調査を行い、2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。深さ0.9m前後で明灰色砂質土の基盤層に達し、土坑2基を検出し、近世陶磁器を出土した。このため、工事対象部分について本調査を実施することとなった。



第5図 中津城下町遺跡40次調査区位置図
(S=1/2,500)



写真3 中津城下町遺跡40次調査Aトレンチ（南から）

(2) 沖代地区条里跡

① 沖代町1丁目

平成30年7月17日、中津市沖代町1丁目704番1で集合住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。約1937㎡の対象地に建築される3棟の集合住宅の地盤改良は、調査時点で造成がほぼ終了した現況地表面から深さ1.5mであった。平成30年8月20日に確認調査を行い、2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。深さ0.9mで明黄灰色弱粘質土の基盤層に達したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



第6図 沖代地区条里跡沖代町1丁目調査区位置図
(S=1/2,500)



写真4 沖代町1丁目Aトレンチ（北東から）

② 大字湯屋

平成30年10月17日、大字湯屋382-1、386-1、386-5で児童福祉施設建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。調査は10月28日に行った。調査の結果、現況下70cmまでは園庭の造成土であった。その下は①旧耕作土、灰色粘土(10cm) ②鉄少量含む堆積、暗黄褐色粘土(10cm) ③黒褐色粘土(50cm)が堆積していた。地山は灰褐色シルトに拳大の円礫を含む堆積で湧水がある。①②は平行に堆積するが③は層理を確認できなかった。堆積状況から、地下水位の高い深田であったと考えられる。②も①以前の水田層と考えられるか時期を特定する遺物は出土していない。



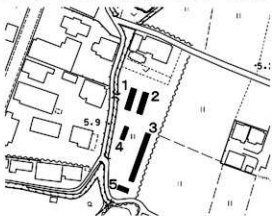
第7図 沖代地区条里跡大字湯屋地区調査区位置図
(S=1/2,500)



写真5 湯屋地区トレンチ (東から)

③ 大字一ツ松

平成30年10月22日、大字一ツ松123-1外で集合住宅建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。調査は10月31日に行った。1トレンチでは①現在の耕作土である灰色細砂(20cm)、②鋤床、灰黄色粗砂(20cm) ③地山、マンガン・鉄分が付着する黄灰色シルトを確認した。2トレンチでは③のマンガン・鉄分の付着が著しく茶褐色を呈する。3トレンチではⅠ：現在の耕作土である灰色細砂(20cm)、Ⅱ：鋤床、灰黄色粗砂(10cm) Ⅲ：黒褐色粘土(5cm) Ⅳ：地山、マンガン・鉄分が付着する黄灰色シルトを確認した。Ⅲは北東隅のみ確認した。またⅢ層と同様な粘土が堆積する溝1を確認し一部を発掘した。条里のラインと直行するため、延長部分に4トレンチを設定したが、4トレンチでは確認していない。4トレンチでは異なる方向、堆積の溝2を確認し一部発掘した。5トレンチでは基本層序はⅠ・Ⅱと同様で遺構は確認していない。溝1・2とも溝に伴うような畦畔は確認していない。遺物が出土せず時期は不明であるが簡易な記録を取り調査を終了した。



第8図 沖代地区条里跡大字一ツ松地区調査区位置図
(S=1/2,500)



写真6 一ツ松地区3トレンチ溝 (西から)

(3) 上ノ原平原遺跡

平成30年11月1日、中津市大字相原字平原2803-14で屋外広告塔設置に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。約175㎡の敷地内に設置する2基の広告塔の基礎は現況地表面から深さ1.2mであった。平成30年11月8日に確認調査を行い、2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。Aトレンチでは深さ0.25mで明茶褐色弱粘質土の基盤層に達し、時期不明の4基の小ピットが検出されたため、引き続きこの遺構の掘削・記録保存をし、調査を終了した。



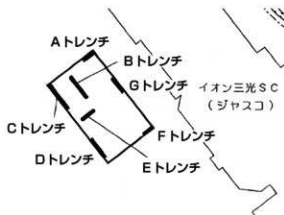
第9図 上ノ原平原遺跡調査区位置図
(S=1/2,500)



写真7 上ノ原平原遺跡Aトレンチ(東から)

(4) 佐知久保畑遺跡

平成30年8月13日、中津市三光佐知字一丁畑926番地2で店舗建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。開発面積は約9663㎡で、建物部分の基礎には現地表面から6mの柱状改良が予定された。平成30年11月19日から21日に確認調査を行い、建物の基礎部分に7本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。深さは2.1～3.3mで明灰黄色弱粘質土の基盤層に達し、各トレンチで方形竪穴住居跡・土坑・溝状遺構・ピット等の多数の遺構を確認し、弥生土器が出土した。このため、柱状改良の施工部分について本調査を実施することとなった。



第10図 佐知久保畑遺跡調査区位置図
(S=1/2,500)



写真8 佐知久保畑遺跡Dトレンチ(北西から)

(5) 田丸城跡

平成30年8月24日、中津市大字福島2174番にて納骨堂建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。建築面積約253㎡、基礎下部分を8mの深さまで柱状改良を行うものであった。平成30年10月3日、確認調査を行い予定地に2本のトレンチを設定した。調査の結果、地表面から1.2m下位にて柱穴状遺構1基、長さ60cm、幅45cmの土坑1基を検出した。調査区は湧水が激しく遺構の掘り下げは行っていない。遺構の撮影を行い調査を終了した。調査区より遺物は出土していない。遺構密度が低いことから本調査は行わなかった。



第11図 田丸城跡調査区位置図
(S=1/2,500)



写真9 田丸城跡トレンチ状況(北から)

(6) 周知道跡外(大字永添字大池)

中津市大字永添字大池2275番1、2275番37で集合住宅建設に先立つ8月21日、駐車場位置にトレンチを3本設定して調査した。1～3トレンチで、盛土が1mの厚さで堆積していた。盛土直下は黄灰色シルトが80cm堆積、その下は黒褐色シルトであった。周辺の状況から宅地化される前は水田であったと思われるが、耕作土、鋤床が層として分離するような水田ではなかったと考えられる。遺構・遺物は確認していない。



第12図 大字永添字大池調査区位置図
(S=1/2,500)



写真10 永添地区1トレンチ(東から)

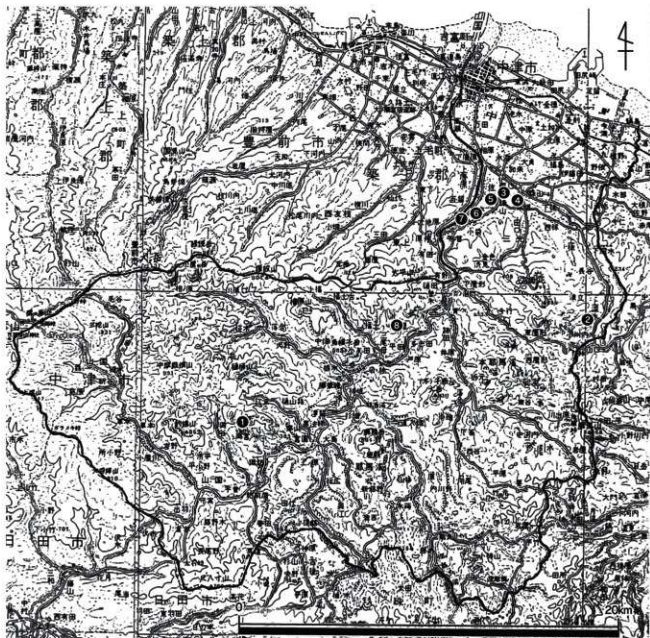
第3章 中近世城館確認調査

1. 調査の経緯

平成25年度から補助を受け中近世城館の確認調査を行っている。県内の中近世城館確認調査は大分県教育委員会が平成7年度～15年度まで実施している。県調査の補足として、調査が手薄であった旧下毛郡部を中心に市内全域の詳細不明城館の探索、及び既知の城館の再確認を行い、開発への備え、重要城館の指定化を目的に本事業は進められている。

2. 調査の経過

今年度は5月と11月に調査委員会を開催した。年度末に市の城館資料等を集成した資料編を刊行予定である。踏査は1月末までに36箇所実施した。以下、遺構の可能性のある山国町中摩地区、三光上深水地区、三光原口地区、三光成恒地区、三光諫山地区、三光土田地区、三光白木地区、耶馬溪町大字平田地区について報告する。



第13図 中近世城館報告箇所位置図 (S=1/200,000)

①山国町中摩地区

平成30年4月19日～20日、山国町中摩字屋形ヶ迫の踏査を行った。山頂に登る途中に堀切状の地形を2箇所確認した。山腹には石列や土塁、曲輪状の地形があったが、遺構が否か判然としなかった。ここからの眺望は大変よく、伝蔭ヶ城を遠望でき、麓の集落も見通すことができる。南東の急斜面の尾根を下ると帯曲輪状の平坦面がある。標高751mの山頂は身の危険を感じるほどの岩山で遺構は確認できない。



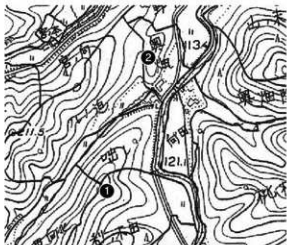
第14図 山国町中摩字屋形ヶ迫周辺位置図



写真11 屋形ヶ迫の堀切

②三光上深水地区

下毛郡誌「毘沙門堂」の項に字咄しに内尾氏が陣を敷いたという記述がある。平成30年5月29日、字咄しの山①を踏査したが、現状では遺構は確認できなかった。隣接する字奥畑集落にて聞き取りを行い、内尾家の墓地在裏山にあるという情報を得た。現地を確認したところ、集落を望む独立丘陵②の平坦面に内尾家墓地が認められた。この平坦面は堀跡と見られる溝により二分されており、最高所であることから主郭と考えられる。主郭は南東で明瞭な段を有し曲輪が付設されている。主郭西側は帯曲輪を2段廻し、主郭下の上段には土塁が巡らされている。主郭北側も小曲輪を配し、東側は通路状の曲輪が細長く伸びている。豊前古城誌には本地区に所在したと思われる「甲野城」の記載がある。今回発見した遺構は先述の毘沙門堂の陣や甲野城と関わる可能性が高い。



第15図 三光上深水字奥畑周辺位置図

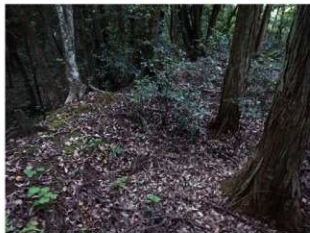


写真12 字奥畑主郭下の土塁

③三光原口地区

平成 30 年 8 月 15 日、三光原口集落の字寺を踏査した。長さ 50m、幅 4m、深さ 2m の堀跡①と五輪塔の寄墓を確認した。住民の聞き取りによると、昔ここには寺があり堀は二重にあった、藪地を整地した際に五輪塔を片隅に寄せたという。さらに「神田」が 2 箇所あり 1 箇所は埋めた、もう 1 箇所は田としてあり「小一郎」のお祭りに使用していたという。別の住民によると、堀は自宅の周り(②)もあり、北の民家の方にも延びて廻っていた、堀は深く大人の背丈以上にあったという。



第 16 図 三光原口字寺周辺位置図



写真 13 字寺の堀

④田島崎城跡

平成 30 年 8 月 16 日、田島崎城を踏査した。田島崎城跡は台地の先端部に所在する。住民から集落にあった堀の位置を聞き取り状況を確認した。①の箇所は良好に堀跡が遺存する。②付近は台地側が急崖になり、溝状を呈していない。聞き取った堀跡の位置は、宅地境や畑・水田境を通る。城跡北と東はある程度堀跡の復元が可能であるが、西と南の復元は難しい。南側は場所不明ながら堀跡が 2 条あったといい、そこが城域の南限の可能性もある。



第 17 図 田島崎城跡周辺位置図



写真 14 田島崎城跡の堀

⑤三光諫山地区

平成30年8月20日・21日、三光諫山地区を踏査した。字図を見ると山林の地目が方形に巡る箇所が多い。字地藏屋敷の西側で浅い溝跡①を確認し、付近の民家裏で土塁と堀跡を確認した。また、字城屋敷の民家の崖下(②)は一部沼状になるが、昔深い堀があったという。字上居屋敷の民家横の藪中で堀跡③と塚を確認した。そこは「城」と呼称されているという。さらに、因教寺西側にて土塁と幅3m、深さ3mの堀跡④を確認した。堀跡は北に延びているが、北限は確認できていない。この他、字中原屋敷で堀跡⑤を、字東養寺畑の恒任家に大規模な土塁⑥を確認した。恒任家墓地の横にも堀があったが埋めたという。



第18図 三光諫山字広屋敷周辺位置図



写真15 字地藏屋敷の堀

⑥三光臼木地区

平成30年8月23日、三光臼木字立屋敷周辺を踏査した。字東ノ平には微高地の畑があり、大交路を挟んで南の竹やぶに幅の狭い溝状遺構①を確認した。字土井には土井家の本家があり、土井昭氏への聞き取りでは、屋敷の廻りにかつて堀があり、出城跡との言い伝えがあるという。

字井ノ坂付近には東西方向を指向する土塁②があり、その上を現代の水路が通っている。



第19図 三光臼木字立屋敷周辺位置図



写真16 字東ノ平の堀

⑦三光土田地区

平成30年9月11日、三光土田字城地区を踏査した。三光支所地域起こし協力隊の秦氏より、プレカット工場の南に土塁状の地形がある旨情報提供を受けたことによる。城の百穴に向かう道の南側平坦面の縁に規模の大きい土塁①が廻らされている。コーナー部もあり、しっかりとした造りの印象を受ける。南斜面には腰曲輪も認められる。道の北側平坦面も西縁に土塁がある。北側は大規模な切岸とする。また、百穴へ向かう道を北に外れた部分にも堅堀状の地形を認めた。これらは工場の北側にある土田城跡に関連する遺構群と考えられる。



第20図 三光土田字城周辺位置図



写真17 字城の土塁

⑧耶馬溪町大字平田地区

耶馬溪町の郷土史家横山民幸氏から、平田字古城^{なまじょう}に堀切状の地形がある旨情報提供を受け、平成30年9月6日、踏査を実施した。また、平成31年2月26日には小柳和宏氏から現地指導を受けた。久福寺裏の斜面を登ると堀切と切岸がある。上部のピークは自然地形か人工的な平坦面か判然としない。砦程度の小規模城郭が存在した可能性がある。



第21図 耶馬溪町大字平田字古城周辺位置図



写真18 字古城の堀切

第4章 長者屋敷官衙遺跡

1. これまでの調査のまとめ

遺跡の立地（第22図）

中津市の南東部は下毛原台地と呼ばれる洪積台地となっている。洪積台地上には、南西から北東方向に多数の小規模な谷地形が発達しており、台地上は起伏の多い地形となっている。長者屋敷官衙遺跡の立地もこうした地形を利用し、遺跡の東側と西側は一段低い谷地形となっている。律令の倉庫令に定められた「倉は、みな高く乾燥した処に於くこと。周圍に池渠を開くこと。」という条件を満たす土地を選定したと考えられる。

これまでの調査歴（表1）

平成7年度から14次にわたる調査を行っている。史跡指定地内では、柱列、溝状遺構に区画された範囲の中から全体の規模が明らかもの16棟、不明のもの5棟の建物が確認されている。指定地外では廃棄土坑とみられる不整形大型土坑、南限の溝などが確認されている。

表1 長者屋敷官衙遺跡調査歴

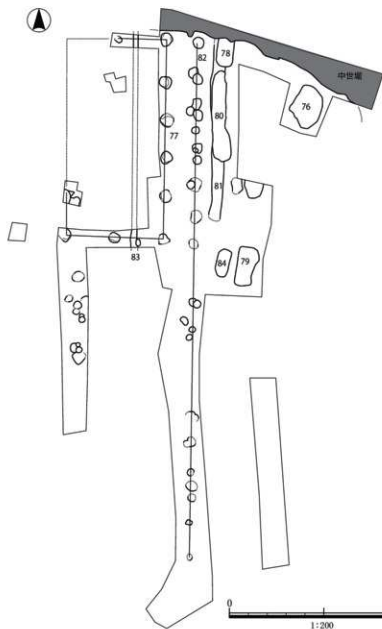
次	年度	面積 (㎡)	主な遺構	調査区
1	平成7年度	8,000	S B - 1 ~ 11、区画施設（溝状・欄状）	1区
2	平成8年度	5,000	南限の溝	2区
3	平成12年度	3,300	不整形大型土坑	3区
4	平成19年度	500	S B - 5の続き、S B - 12	4区
5	平成20年度	350	S B - 13（礎石建物）、14、北限の溝、東限の溝	5・6区
6	平成21年度	1,280	北限の溝の続き	7区
7	平成22年度	85.5	中世遺構	8・9区
8	平成23年度	464	古代建物2棟	10区
9	平成24年度	1,600	古墳時代中期竪穴建物2軒	11・12区
10	平成25年度	400	S B - 15・16・17・18、区画施設（溝状）土坑、溝（円林寺墓地）・南限の溝の続き	13区
11	平成26年度	230	中世遺構	16区
12	平成27年度	450	S B - 5、S D - 34、S B - 13南溝、S A - 27の再確認調査	申請地①~④
13	平成28年度	50	S A - 27の再確認調査	17区
14	平成29年度	50	S A - 27の南側再調査	17区
15	平成30年度	144	指定地外周辺確認調査	18区



台地
 扇状地
 遺跡範囲
 ※空白部分は
谷底平野

0 1km
 1:20000

第22図 長者屋敷官衙遺跡周辺の地形図(1:20000)



第23図 確認調査平成30年度調査区
 (1:200 概略図より作成)

2. 平成30年度の調査結果（第23図 写真19～22）

平成30年度は指定地外の官衙関連遺構の確認調査を行った。調査区は、指定地から約100m東の民間所有の畑である。平成30年12月28日に農地転用の許可が下り、翌1月8日から調査に着手した。確認した遺構は次のとおりである。

側柱建物（S77）：南北棟。正方位から東へ2°傾く。掘方直径60cm、桁行6間（柱間2.1m）、梁行2間（柱間2.5m）を確認。建替えあり。

溝状遺構（S81）：南北方向の溝。幅60cm、S78と重複部分で深さ15cmを確認。南へ行くに従って削平が著しく、溝の南端部分では深さ5cmになる。延長部分は削られて残っていないと考えられる。

（S83）：南北方向の溝。幅30cm。規模、埋土が正倉院で見つかっている区画溝に似ている。

柱列（S82）：南北方向の柱列。正方位から東へ1°傾く。掘方直径25～50cm、柱痕跡の直径15cm。柱間1.5～1.8m、調査区南端まで続くが途中途切れる。S81同様南に行くに従って削平を受けていると考えられる。

土坑（S78）：S80を切る。幅1m、深さ75cm、横断面をトレンチで確認。横断で確認した壁は底部から急角度で立ち上がる。土師器・須恵器が破片で大量に出土している。堆積状況は一度に埋め戻された状況で埋土に炭化材を多く含む。土器は須恵器蓋の形態から、8世紀後半に廃棄されたと考えられる。

（S80）：S81を切る。幅70cm。S78の延長上にあり、表面観察からS78と同様の埋土で同時期に掘られたと推測される。

不整形土坑（S76）：瓦・土師器出土。8世紀後半の土器が出土している。

遺構の残存状況

10～20cmの表土下に遺構面を確認している。調査区全域に長さ1m幅20～30cm深さ40cmほどの耕作痕（遺物から江戸時代以降か）が畑の地割と同じ方向で40cm間隔に残るため、遺構はこれによって破壊を受けている状況である。また、調査区の南側に行くに従い削平が著しい。耕作痕を掘って確認した遺構の深さはS77で15cm程度、S82の北側掘方で10cm程度である。

埋土の特徴

埋土はきめの細かい黒色土及び地山ブロックと黒色土の混ざりのものが古相で、正倉院で確認している1期の建物の埋土であり炭化物を含まない。柱列、溝状遺構（S83）、建替え前の建物柱掘り方の埋土である。土坑（S78、80）の埋土は、茶褐色の土に炭化物、土器を多く含むものである。S78からは8世紀後半の須恵器蓋が出土している。S78に切られるS81の埋土は黒褐色土に細かい地山ブロックを多く含む。

今年度調査で確認した建物、柱列、溝状遺構の主軸方位は、指定地で確認されている建物、区画溝と同様にほぼ真北を指向する。建物については、柱間寸法が桁行7尺、梁行8.5尺で揃い、規模についても一般集落遺跡の建物とは様相を異にする。こうした特徴、指定地との距離から考えて、今年度確認した遺構は官衙に関連する遺構と考えられる。また、炭化米の出土は無く、遺物が一定量出土する点は正倉院との相違点で、遺構の性格を考えるうえで重要である。今後は、周辺の確認調査を継続しながら、個々の遺構の規模、性格をさらに明らかにしていく必要がある。

＜参考文献＞

中津市教育委員会「長者屋敷遺跡」中津市文化財調査報告書第26集 2001

中津市教育委員会「長者屋敷官衙遺跡4～11次調査」中津市文化財調査報告書第73集 2015

中津市教育委員会「市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(3) 長者屋敷官衙遺跡 市内遺跡発掘調査概報9」

中津市文化財調査報告第75集 2016

中津市教育委員会「市内遺跡試掘確認調査 相原庵寺 長者屋敷官衙遺跡 中近世城館確認調査(4)」市内遺跡発掘調査概報10」中津市文化財調査報告第81集 2017



写真 19 長者屋敷官衙遺跡建物
(人が立っている所が柱掘り方) (北から)



写真 20 長者屋敷官衙遺跡柱列と溝状遺構、土坑 (北から)



写真 21 長者屋敷官衙遺跡土坑 (S78) 出土状況
(北から)



写真 22 長者屋敷官衙遺跡溝状遺構 (南から)

報告書抄録

書名		市内遺跡試掘確認調査		中近世城館確認調査(6)		長者屋敷官衙遺跡			
副書名		市内遺跡発掘調査概報							
巻次		12							
シリーズ名		中津市文化財調査報告							
シリーズ番号		第92集							
編著者名		浦井 直幸 丸山 利枝 末永 弥義							
編集機関		中津市教育委員会							
所在地		〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 Tel:0979-22-1111							
発行年月日		2019年3月29日							
所収遺跡名		所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
市内遺跡試掘確認調査	中津城下町遺跡	大分県中津市字江三竹町1949番	44203	203002	33°36'3"	131°11'7"	20180704	54	就労支援施設他
	中津城下町遺跡	大分県中津市北門通561-6番～565地先	44203	203002	33°36'25"	131°11'24"	20180821	7	道路改良
	中津城下町遺跡	大分県中津市字船場町518-1番～526番付近	44203	203002	33°36'04"	131°11'08"	20181026	16	道路改良
	沖代地区 桑里跡	大分県中津市沖代町1丁目704番1	44203	203007	33°35'25"	131°12'06"	20180820	40	集合住宅建設
	沖代地区 桑里跡	大分県中津市大字湯屋386-1、5	44203	203002	33°34'44"	131°11'25"	20181028	8	保育施設建設
	沖代地区 桑里跡	大分県中津市大字一ツ松字華田123-1、123-5	44203	203157	33°35'21"	131°12'17"	20181031	102	集合住宅建設
	上ノ原平原遺跡	大分県中津市大字相原2865-19外	44203	203122	33°33'39"	131°11'41"	20181108	29	屋外広告塔
	佐知久保畑遺跡	大分県中津市三光佐知926番地2	44203	203151	33°33'05"	131°11'35"	20181119 20181121	172	店舗建設
	田丸城跡	大分県中津市大字相原3360-3外	44203	203041	33°33'57"	131°13'50"	20181003	144	店舗建設
	周知遺跡外	大分県中津市大字定留256番1	44203	203034	33°34'10"	131°12'24"	20180821	26	市道新設
中近世城館調査	山国町中摩地区	大分県中津市山国町中摩	-	-	33°26'12"	131°02'51"	20180419 20180420	-	確認調査
	三光上深木地区	大分県中津市三光上深木	-	-	32°29'28"	131°15'46"	20180529	-	確認調査
	三光原口地区	大分県中津市三光原口地区	-	-	33°32'50"	131°12'12"	20180815	-	確認調査
	田島崎城跡	大分県中津市三光成恒	44203	203197	33°32'32"	131°12'36"	20180816	-	確認調査
	三光諫山地区	大分県中津市三光諫山	-	-	33°32'39"	131°11'53"	20180820 20180821	-	確認調査
	三光白木地区	大分県中津市三光白木	-	-	33°32'12"	131°11'9"	20180823	-	確認調査
	三光土田地区	大分県中津市三光土田	-	-	33°32'10"	131°10'42"	20180911	-	確認調査

	那馬溪町大字平田地区	大分県中津市那馬溪町大字平田	-	-	33°29'4"	131°08'51"	20180906	-	確認調査
長者屋敷官街遺跡		大分県中津市大字永浜2394-1	44203	203119	33°34'6"	131°12'25"	20190108 20190325	144	確認調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
市内遺跡 試掘確認調査	中津城下町遺跡	城下町	近世	溝・土坑	近世陶磁器	なし			
	中津城下町遺跡	城下町	近世	土坑	なし	なし			
	中津城下町遺跡	城下町	近世	土坑	近世陶磁器	なし			
	沖代地区 桑里跡	桑里跡	弥生・古墳・ 古代・中世・ 近世	なし	なし	なし			
	沖代地区 桑里跡	桑里跡	弥生・古墳・ 古代・中世・ 近世	なし	なし	水田層			
	沖代地区 桑里跡	桑里跡	弥生・古墳・ 古代・中世・ 近世	溝	なし	時期不明			
	上ノ原早原遺跡	集落	弥生・古墳	ビット	なし	なし			
	佐知久保畑遺跡	集落	縄文・弥生・ 古墳	住居跡・溝・土 坑	弥生土器	弥生～古墳時代の集 落跡			
	田丸城跡	中世城館	中世	土坑・柱穴	なし	なし			
周知道跡外	-	-	なし	なし	なし				
中近世城館調査	山国町中摩地区	-	-	堀切	なし	小字屋形ヶ迫に遺構あり			
	三光上深水地区	-	-	土塁	なし	小字奥畑に遺構あり			
	三光原口地区	-	-	堀	なし	小字寺周辺に遺構あり			
	田島崎城跡	中世城館	中世	土塁・堀	なし	集落内に堀跡あり			
	三光鎌山地区	-	-	堀	なし	小字広屋敷等に堀あり			
	三光白木地区	-	-	堀	なし	小字立原敷に遺構あり			
	三光土田地区	-	-	土塁	なし	小字城に遺構あり			
	那馬溪町大字平田地区	-	-	曲輪	なし	小字古城に遺構あり			
長者屋敷官街遺跡	官街跡	古代	欄柱建物・溝状 遺構	須恵器・土師器	官街関連と 考えられる				
要約	中近世城館調査は三光地区、那馬溪地区の踏査調査を行い、堀切や土塁などの遺構を新たに確認した。								

市内遺跡試掘確認調査
中近世城館確認調査(6)
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報 12

中津市文化財調査報告 第92集

2019年3月29日

発行 中津市教育委員会

印刷 高橋印刷所

